

課題NO.3

土地利用型法人によるえだまめ生産体系の 導入・定着

活動期間：令和3年度～令和5年度

対象者：有限会社薬師農産，農事組合法人かすかわ

チーム員：千葉研一郎，早坂裕子，宍戸修

1 課題の背景・ねらい

(背景)

- ▶ 大郷町前川地区では、農地整備事業（370ha）が予定されている。
- ▶ 高収益作物として、えだまめやねぎの導入が検討されている。
- ▶ 対象の2法人は、当地区内の担い手であり、農地整備事業に先駆けて、初めて、えだまめ栽培に取り組むことになった。
- ▶ えだまめ栽培の導入は、水稻や大豆の作業との競合が課題となる。そこで、収穫から出荷調製作業の省力化・分業化や早晩性の異なる品種の組合せによる作期分散に向けた支援が必要となっている。
- ▶ 町、JAでは、えだまめを振興作物として位置づけている。

(ねらい)

- ▶ 定性的目標：
 - ・ 基本的な栽培技術が習得できる。
 - ・ 水稻及び大豆の作業と競合しない作型の導入が検討される。
- ▶ 定量的数値目標：10a当たり可販収量 R3：200kg（※中早生種及び晩生種の平均値）

2 活動内容

(1) 雑草・病害虫防除等栽培技術支援

初めて栽培するため、栽培計画の打合せを行い、基本技術の習得を支援した。



対象法人、JAとの栽培計画打合せ
(4月)



播種指導
(5～6月)

2 活動内容

(1) 雑草・病虫害防除等栽培技術支援

基本技術習得のための先進地研修や相互研鑽のための現地検討会を企画・実施した。



先進地視察研修
(生育中の管理)
(6月)



相互巡回検討会
(収穫適期の判断)
(7月)



サプライチェーン事業現地
視察 (選別調製)
(8月)

2 活動内容

(2) 導入作型の検討

水稲及び大豆との作業競合の課題解決のため実証ほの設置等を実施した。



実証ほの設置

播種時期：5/20、6/2、6/18

品種検討：初だるま、湯あがり娘、ゆかた娘

月日 (必須)	作業名 (必須)	作業ほ場	作業時間 (必須)	作業 人数 (必須)	使用資材名 使用量	使用機械名	機械使用 時間	その他
4/6	耕起	No2~6	8:00~16:00 (休憩 1時間)	1人		トラクター	5時間	
4/6	肥料散布	No2~6	8:00~12:00 (休憩 30分)	2人	堆肥1t/10a 硫酸40kg/10a	マニュアルブレッダ ブロードキャスタ	15時間 1時間	
4/24	追肥散布	道南232~234 道南235~236	10:00~12:00 (休憩 分)	1人	追肥 600g/10a		2時間	
4/25	耕起	〃	10:00~12:00 (休憩 分)	1人		トラクター	2時間	
5/19	肥料散布	道南232~234	9:00~10:00 (休憩 分)	2人		トラクター ブロードキャスタ	1時間	
5/19	耕起	〃	10:00~11:00 (休憩 分)	1人		トラクター	1時間	
5/25	播種	②	9:00~10:00 (休憩 分)	2人		トラクター ブロードキャスタ	1時間	
5/25	耕起	①	10:00~11:00 (休憩 分)	1人		トラクター	1時間	
5/26	除草剤散布	②	5:00~5:30 (休憩 分)	2人	プロ-ルプラス 500ml 3本	ゲームスプレー	30分	
6/1	肥料散布	①	13:00~14:00 (休憩 分)	2人		トラクター ブロードキャスタ	1時間	

作業名：耕起、堆肥散布、肥料散布、播種、除草剤散布、中耕、培土、追肥、農業散布、収穫、運搬・出荷、その他作業()

作業日誌の記帳確認

(労働時間・コスト調査用)

3 これまでの活動成果

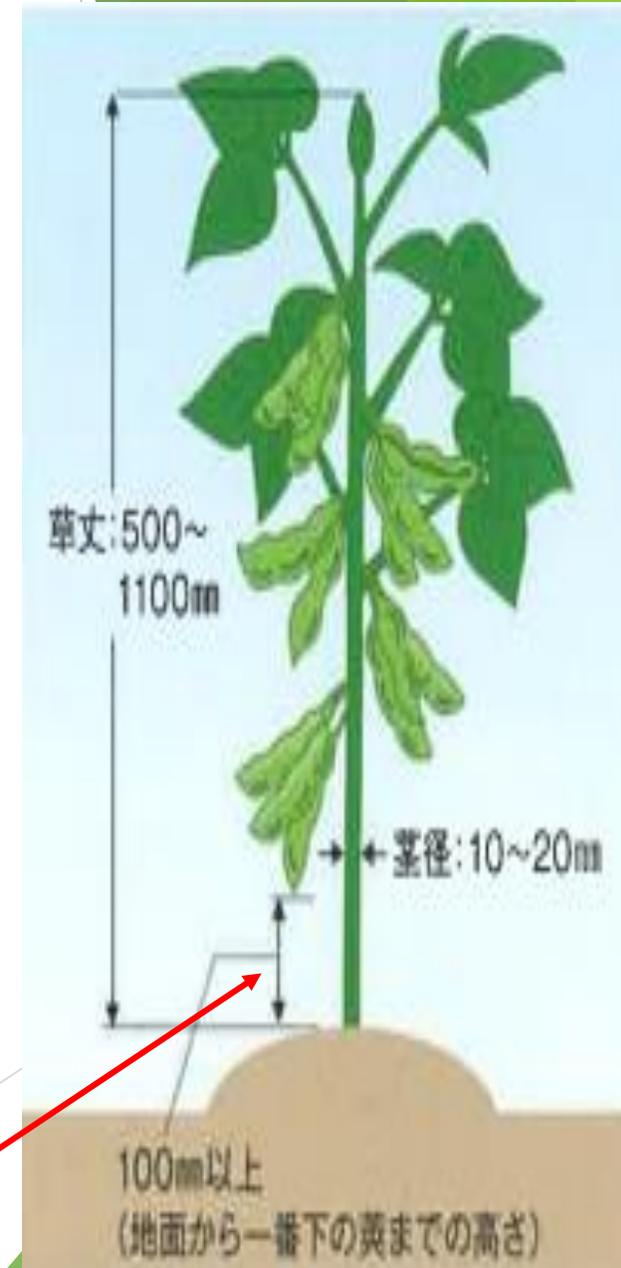
(1) 雑草・病害虫防除等栽培技術支援 ～収穫作業の状況～



3 これまでの活動成果

(1) 雑草・病虫害防除等栽培技術支援

- ▶ 肥培管理は、土壌診断結果に基づき施肥設計を行い指導した結果、指導内容に従い適切に肥培管理が行われた。
- ▶ 病虫害防除は、普及センターで作成した病虫害防除資料を参考に適切に実施され、虫害による莢の被害はほとんど見られなかった。
- ▶ 6～8月に実施したすべての研修等において、各法人から若手の参加がみられ、細かな作業の確認や初収穫を前に収穫適期の判断を熱心に学ぶ姿がみられた。
- ▶ 収穫は、着莢位置が低いと機械収穫によりロスが生じることが判明。着莢位置の高い品種の選定が課題として明らかとなった。



3 これまでの活動成果

(2)導入作型の検討

- ▶ 農事組合法人かすかわ：5/25、6/3播種→8月中旬収穫終了。
田植直後に播種しても良い。次年度は作付時期の検討が必要。
- ▶ 対象2法人：今年は、水稻及び大豆との作業競合は特になし。
次年度は中間管理作業も考慮した作期拡大など、栽培時期を検討。
- ▶ 普及センター実証ほは、現在、調査を継続中。



6/18播種



6/2播種



5/20播種

普及センター実証ほ 7/15時点の状況

4 今後の対応

(1) 雑草・病害虫防除等栽培技術支援

- ▶ 今年の実績を振り返り，課題の洗い出しと対策について検討。
- ▶ 次年度に向けた作付計画について検討。
- ▶ 栽培暦の作成支援。

(2) 導入作型の検討

- ▶ 作付時期・品種検討実証ほのデータを取りまとめ，生産者へ情報提供。
- ▶ 労働時間・経営調査の結果を基に経営指標を作成し，生産者へ情報提供。